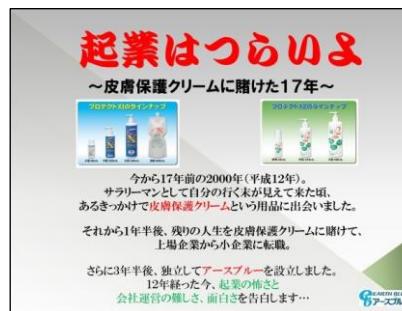




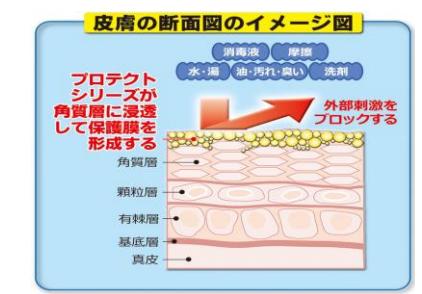
### (1) 「関西でのあれこれ」 ■松林 孝憲 (1993年商入学)

- 探検部時代、様々な活動の中でも特に傾倒したのが、山登り。
- 社会人になってからも社会人山岳会で山登りを継続。しかし子供の誕生、愛知・大阪への転勤と、人生の変化とともに、徐々に山から遠ざかる。
- けど、どこかに山がつきまとい、山へ山へと誘われる。その中で関西でのお茶濁し山登りから、久しぶりに頑張った大峰奥駆道縦走をご紹介。



### (2) 「企業はつらいよ」 ■川尻 哲夫 (1970年商入学)

- 17前に出会った皮膚保護クリームに後半人生を賭けて、上場企業から転職。そして起業して12年の今、起業の怖さと会社運営の難しさ、面白さをOBの皆さん前で告白しました。
- 振り返って、起業2~3年目の頃は、膨れあがる累積赤字と伸びない売上げに、先が見えないトンネルの中で必死にもがいたが、光がかすかに射して、徐々に黒字転換を図ることが出来た。
- 既に人生の黄昏時期に入っているが、「理想を失わず、常に青春」で生きてゆきたいものです。



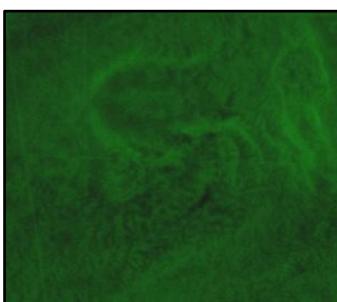
1992年ナチャン海岸を沖から撮影。  
広い砂浜が続く漁村であった。

### (3) 「実録・ベトナムの1970年から2017年まで」 ■大野 正夫 (1959年生物入学)

- 1992年代のベトナムは貧しかった。特にインフラが遅れ、軍用道路以外は、アスファルト道は少なかった。ナチャンは、漁民の街であった。
- 漁村は多くの船が行き交い、水産資源は豊かで、生活は決して貧しくはなかった。2017年、ナチャンから多くに漁民は消えてベトナム最大のリゾートに変貌した。漁船は少なくなり、街には外国人が闊歩していた。漁民はどこに消えたのだろう。



2017年空港に掲示された「リゾート・ナチャン」の近年の写真。



### (4) 「進化の旅と探検部」 ■小澤 幸重 (1965年生物入学)

ノーベル賞や新発見のニュースで盛り上がっていますが、大学は独創力の欠如とハラスメントで大揺れではないでしょうか。市大に入学し探検部に入りデモに参加して「全国の学友諸君！」と呼び掛けられて胸が震えました。私は歯の研究をして今日に至っていますが目的は進化です。自分の結果は生物全体の大海上の一滴に足りませんが普遍化しなければ進化になりません。全体を体系化するためには哲学が必要です。そうすると宇宙・地球の進化と本質的に生物進化の原理は同じ、という結論に至りました。この学問的価値、真理との距離、これは残念ながら自分以外では評価できません。ですから世に言う〇〇賞や研究費の獲得とはおのずから違った道を彷徨っています。歯から宇宙への旅もまた愉しからず也、です。

